

2007年3月期決算説明会

アストマックス株式会社 (ジャスダック:8734)

●当資料は特定の商品の勧誘及び販売を目的として作成されたものではありません。●当資料は、アストマックス株式会社が信頼性が高いとみなす情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性等について保証するものではありません。また、当資料に示すデータ・意見は当資料作成日のアストマックス株式会社の実績・見解を示すものですが、当資料により被った損害を補償するものではありません。●当資料における運用実績は過去のものであり、将来の運用結果を保証するものではありません。●当資料は目的に関わらず、アストマックス株式会社の許可なく複製及び複写することを禁じます。



決算概況

連結決算ハイライト

連結決算

単位:百万円	2006年 3月期(参考)	2007年3月期
営業収益	1,856	988
営業利益	838	△15
経常利益又は 経常損失(△)	810	△86
当期純利益又は 純損失(△)	495	△93

◎連結営業収益

新規運用受託案件の成約が落ち込んだこと及びトレンドフォロー型運用プログラムの低迷により投資顧問報酬が減少、ディーリング事業では国内取引所の流動性の低迷及び一部のディーラーの退職等により減益、営業投資事業では自己投資しているファンドにおいて運用収益率の低迷が影響し減益となった。

◎連結営業利益

主として業績連動のインセンティブ給・賞与の大幅減少、東京工業品取引所等の定率会費の低下等により営業費用が減少したものの営業収益の減少が大きく連結営業利益がマイナスとなった。

◎連結経常利益

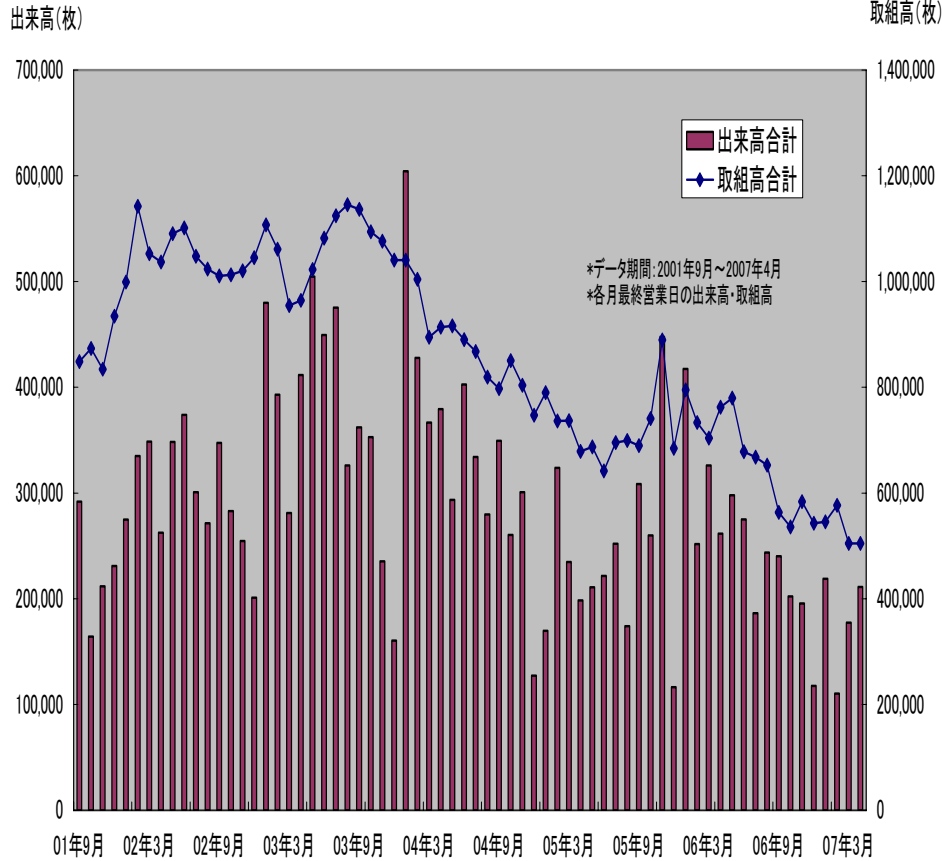
主として上場関連費用の発生により営業外費用が増加し、連結経常利益がマイナスとなった。

事業環境

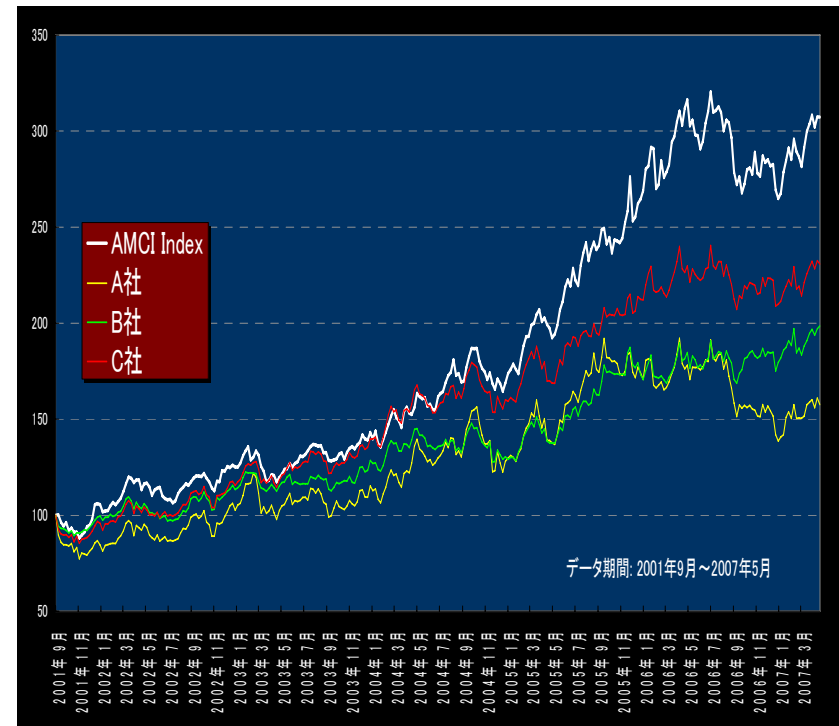
商品先物市場の流動性低下
商品市況の低迷

事業環境は昨年夏場以降悪化
⇒ 厳しい環境は続く見通し

東京工業品 出来高・取組高推移



アストマックス商品指数 (AMCI) 【白線】と円換算した
他主要商品指数の比較 2001年9月14日=100



2007年3月期通期業績

◎営業収益

投資顧問事業：新規運用受託案件の成約が遅れたことから報酬が減少。

ディーリング事業：国内商品取引所における取組高・出来高の減少に歯止めがかからず収益獲得のチャンスが減少。一部のディーラーが退職しそれに代わるディーリング経験者の期中採用ができなかった。

営業投資事業：投資先のファンドが低迷しマイナスとなった。増資資金の用途として予定していた自己投資が遅れたため配当金が減少。

◎経常利益・当期純利益

*三井物産フューチャーズ株式会社(以下、MBF)子会社化のためのデューデリジェンス費用と借入金に関わる銀行手数料、並びに海外事務所設立費用等が発生。

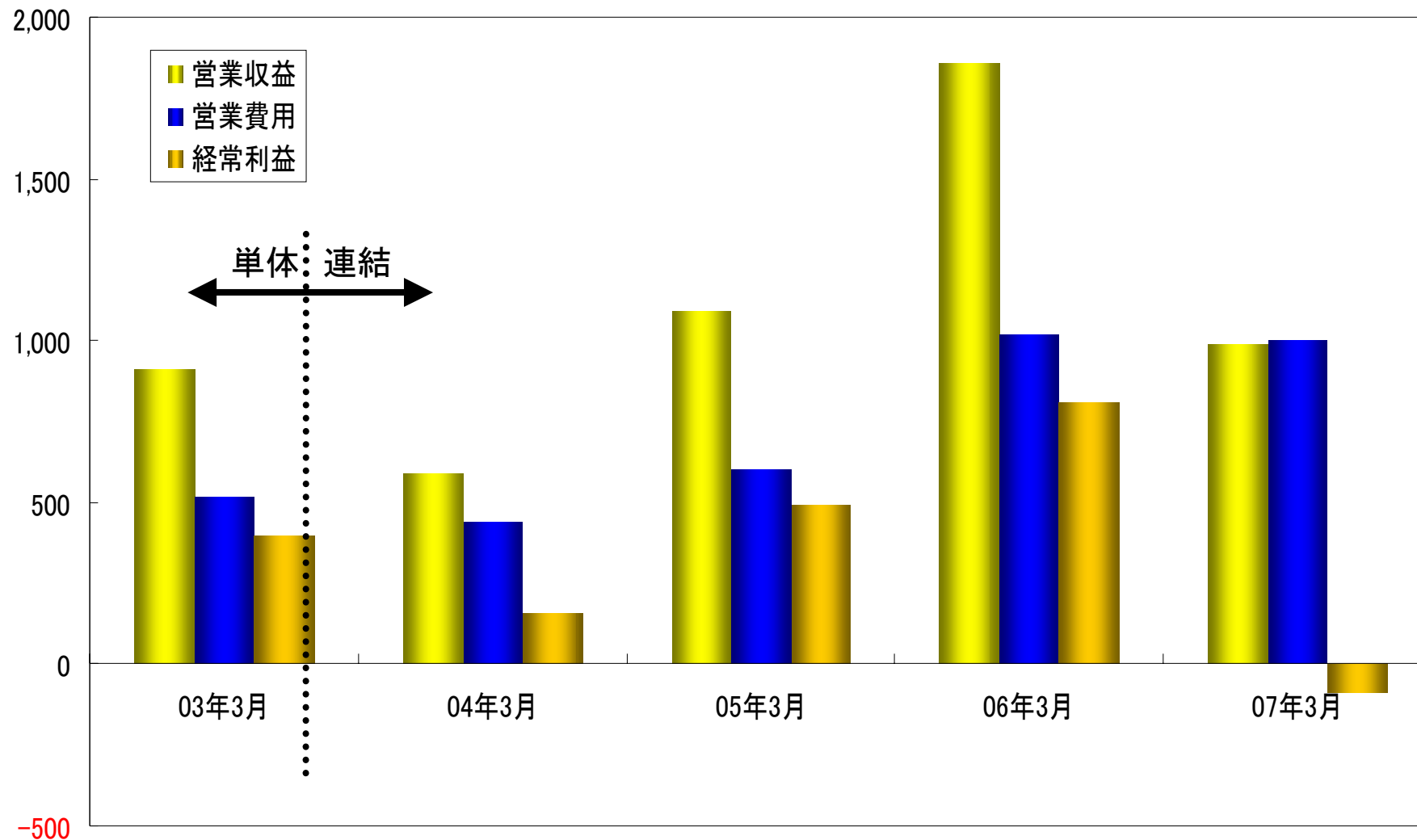
*役員退職慰労引当金の取崩益を特別利益として計上。

通期業績(連結)

単位:百万円	2006年3月期	2007年3月期		
	実績値	2/2修正予想	実績値	増減率
営業収益	1,856	1,009	988	△2.1%
経常利益	810	△93	△86	—
当期純利益	495	△144	△93	—

当社企業グループの業績推移

(単位:百万円)



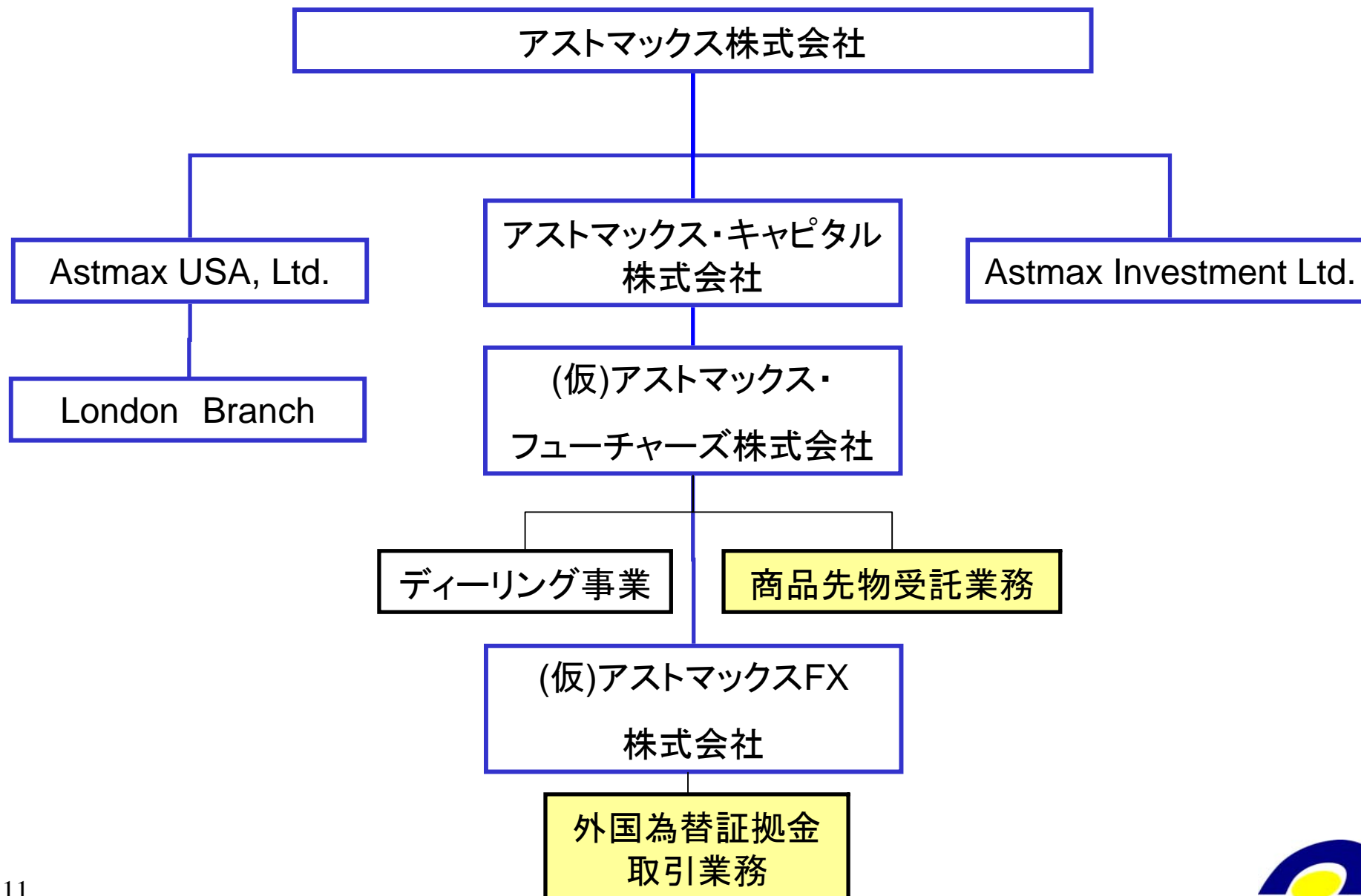
今後の経営戦略

- ▶ 顧客資産運用額の増大
 - ▶ マーケティング部の拡充・運用部との連携による販売体制の強化
 - ▶ 新BIS基準に対応したファンドに経営資源を集中
 - ▶ 年金向けポートフォリオ運用の拡販
 - ▶ 大和証券との連携強化
- ▶ 新規運用プログラムの開発
 - ▶ 日本株ロング・ショート運用の本格運用開始
 - ▶ ASTMAX USA, Ltd. ロンドン支店によるオプション裁量型運用の本格運用開始
 - ▶ 新運用システムの開発
 - ▶ 新ファンドマネージャーによる商品のファンダメンタル運用
- ▶ ファンドマネージャー採用・育成
 - ▶ デイリング部よりファンドマネージャー2名をロンドンに駐在
 - ▶ 同部よりファンドマネージャー1名を移籍
 - ▶ 近々ファンドマネージャー1名採用予定

- **ディーラー採用・育成**
 - 穀物ディーラー1名・トレーニー3名採用
 - MBFの買収によりディーラー17名を新たにグループ内に追加
- **ディーリングの日本市場依存度の引下げ**
 - DME (Dubai Mercantile Exchange) のメンバー・マーケットメーカー他
 - エネルギーOTC市場取引のインフラ整備 (シンガポール市場)
 - 貴金属OTC市場取引のインフラ整備 (EBSの導入)
 - 海外先物市場取引のインフラ整備 (ISVの導入)
 - DMEマーケットメイク業務開始・穀物裁定取引の開始
- **年俸制の導入・インセンティブ制度の変更**
 - チーム制移行 (07年10月予定) への準備
- **アストマックスFX・アストマックス・フューチャーズとのシナジービジネスの追求**

- ▶ **システムの強化・管理体制強化**
 - ▶ 新管理システム（CosmosⅢ）の開発
 - ▶ Var管理システムの導入。
 - ▶ デイラー管理システムの開発
 - ▶ 会計システムの統合
- ▶ **コンプライアンス・内部統制強化**
 - ▶ 日本版SOX法への対応
 - ▶ 管理部門の増員
 - ▶ 金融商品取引法への対応
- ▶ **組織の効率化・管理部門の相対的スリム化**
 - ▶ MBF買収完了後のスリム化した管理体制の構築準備
 - ▶ 経理・情報システム・リスクマネジメント・コンプライアンス等早期に統合

MBF子会社化後の組織図

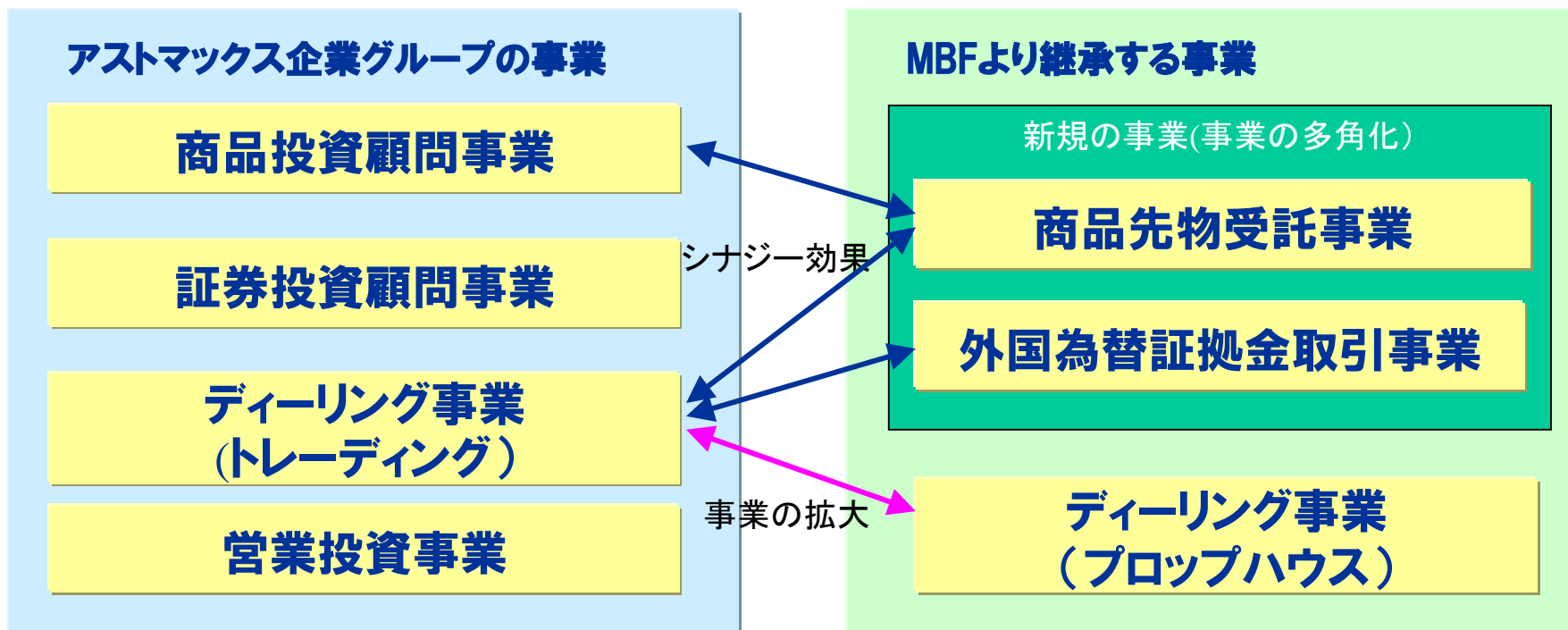


MBF株式取得詳細

- 取得価額:平成19年3月31日現在のMBFの純資産額
- 資金調達:取引銀行からの借入・第三者割当増資
- 株式取得後の所有株式比率:100%
- 経緯及び今後の日程
 - 平成19年3月 買収受皿会社としてアストマックス・キャピタルの設立
 - 平成19年6月29日までの合意日 MBF株式の受渡し

MBF子会社化後の事業内容

- ◎事業の拡大……ディーリング事業:当社のディーリング事業とともに強化・発展を目指す。
- ◎事業の多角化……商品先物受託業務、為替証拠金取引:当社にとって新規の事業であるが、主要業務と関係深い事業分野であり、シナジーを生かし拡大を目指す。
- ◎効率化……クロージング後、MBFの事業の見直し、当社管理部門との融合による効率化を促進。



顧客資産運用額の増大

リテール

上場による知名度up



証券会社、投信会社との提携



公募投信

国内外機関投資家

Sales Agentの活用

証券会社、投信会社との提携

ポートフォリオマネジメント

商品・証券の両方の投資顧問
であるアドバンテージを活用。



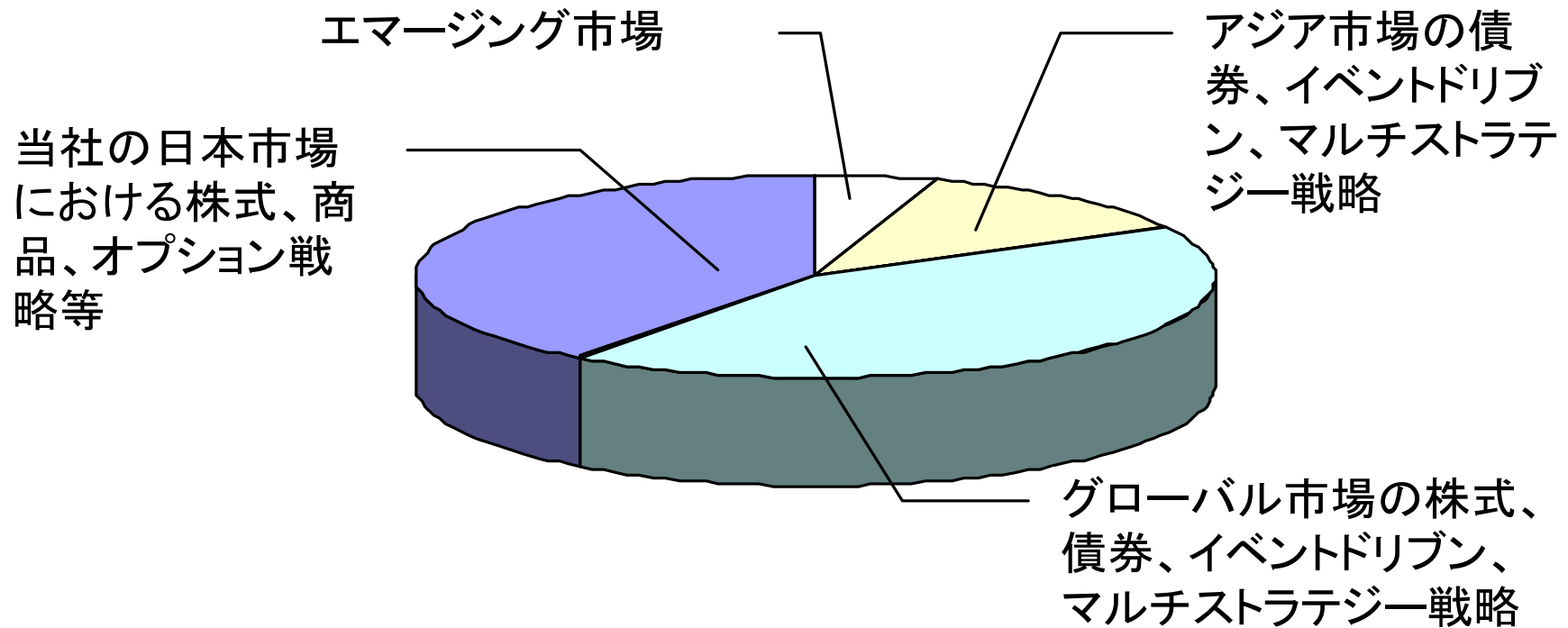
オルタナティブ運用の
ポートフォリオの提案



年金特金

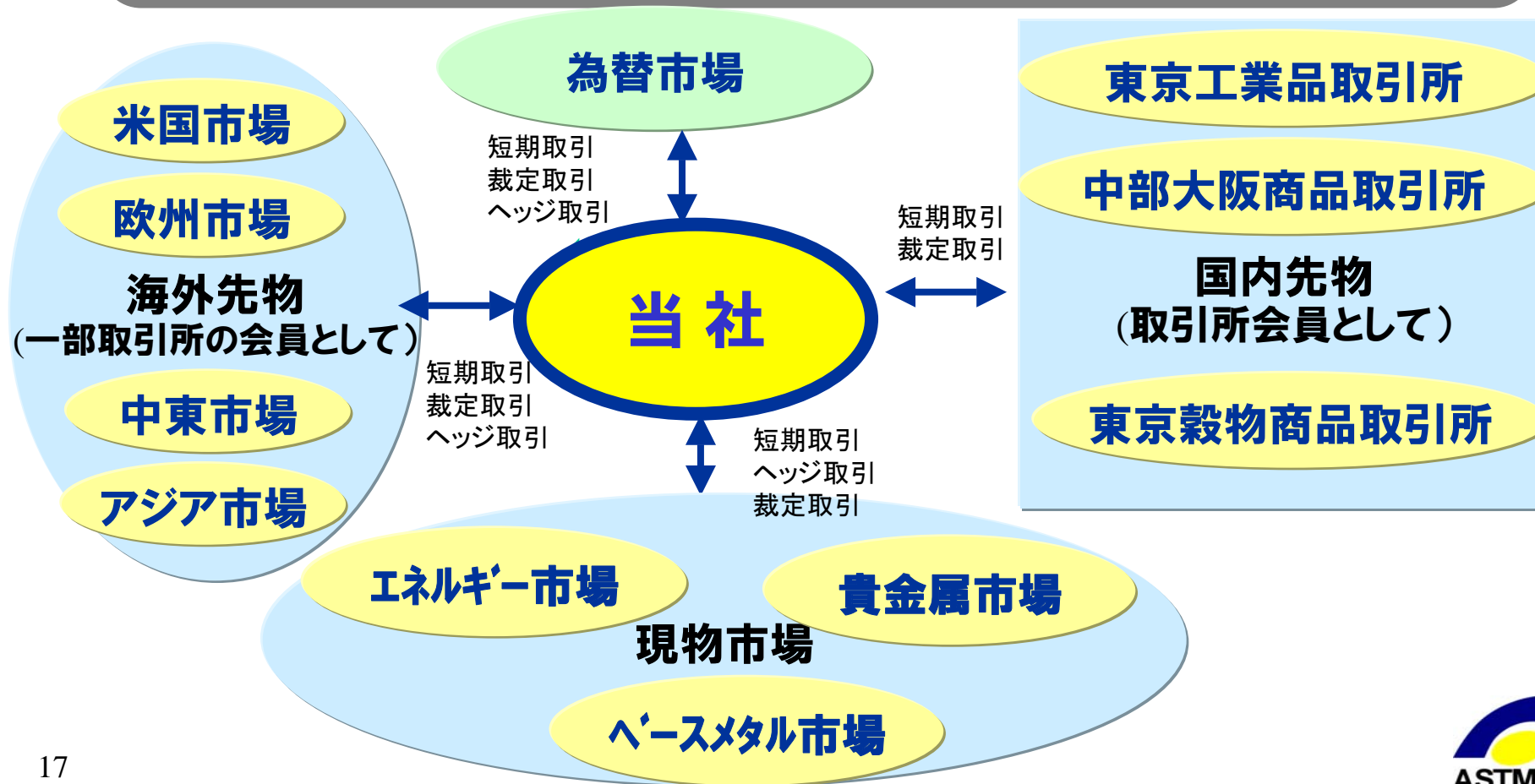
ポートフォリオマネジメント事業

- 自社運用、他社運用を問わず、顧客にとって最適なポートフォリオを構築
- ポートフォリオの戦略別配分は適宜見直しされます
- 下記チャートは参考例です



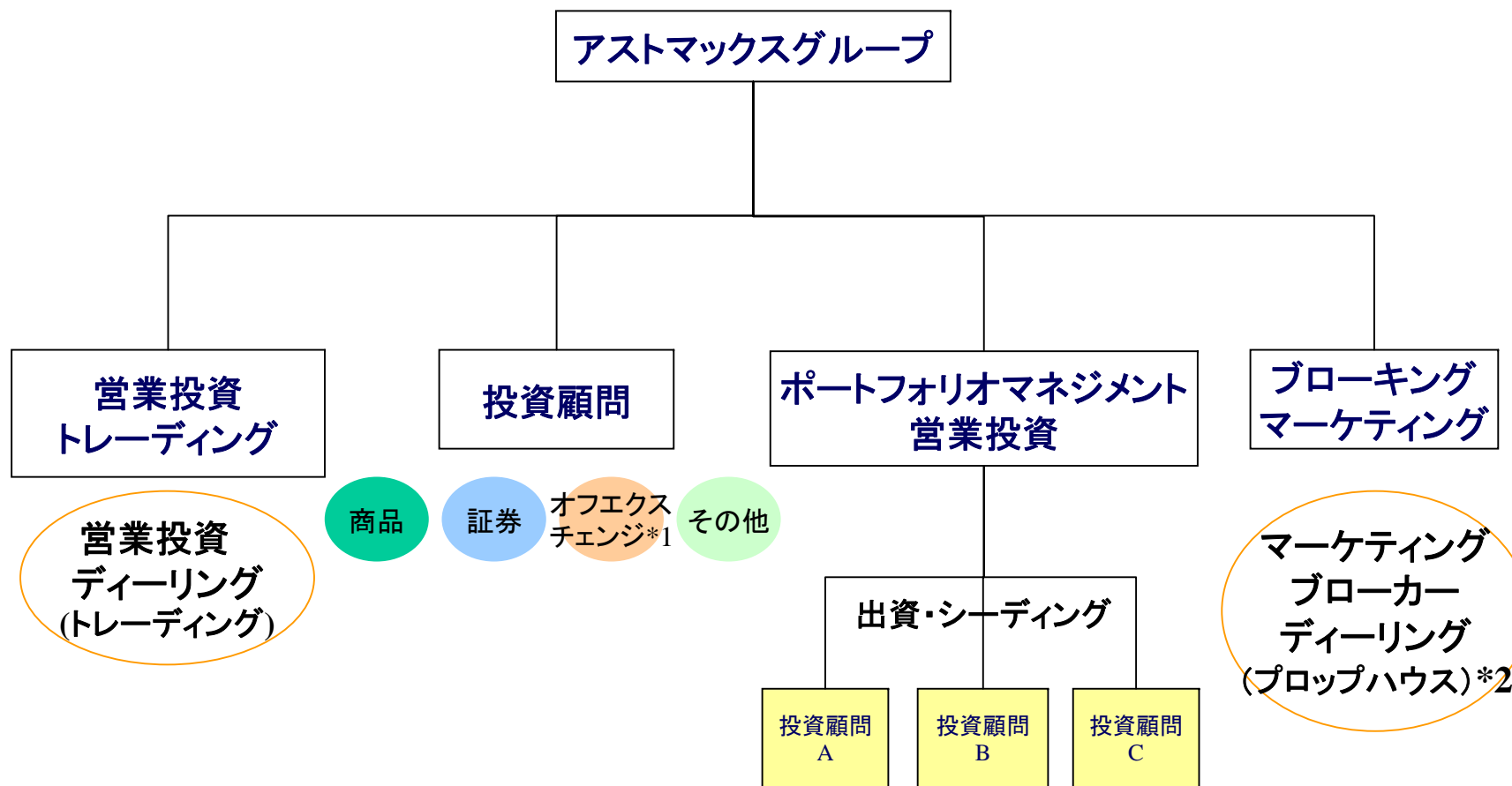
ディーリング事業(トレーディング)強化

- ① 先物市場でのDay Tradeに加え裁定取引を拡大
- ② 財務基盤の強化によりエクスポージャー増が可能→収益の増加
- ③ 海外市場・現物市場におけるマーケットメーカー的ビジネスの開始



中期的な経営戦略

将来のグループ構成イメージ



海外ネットワーク

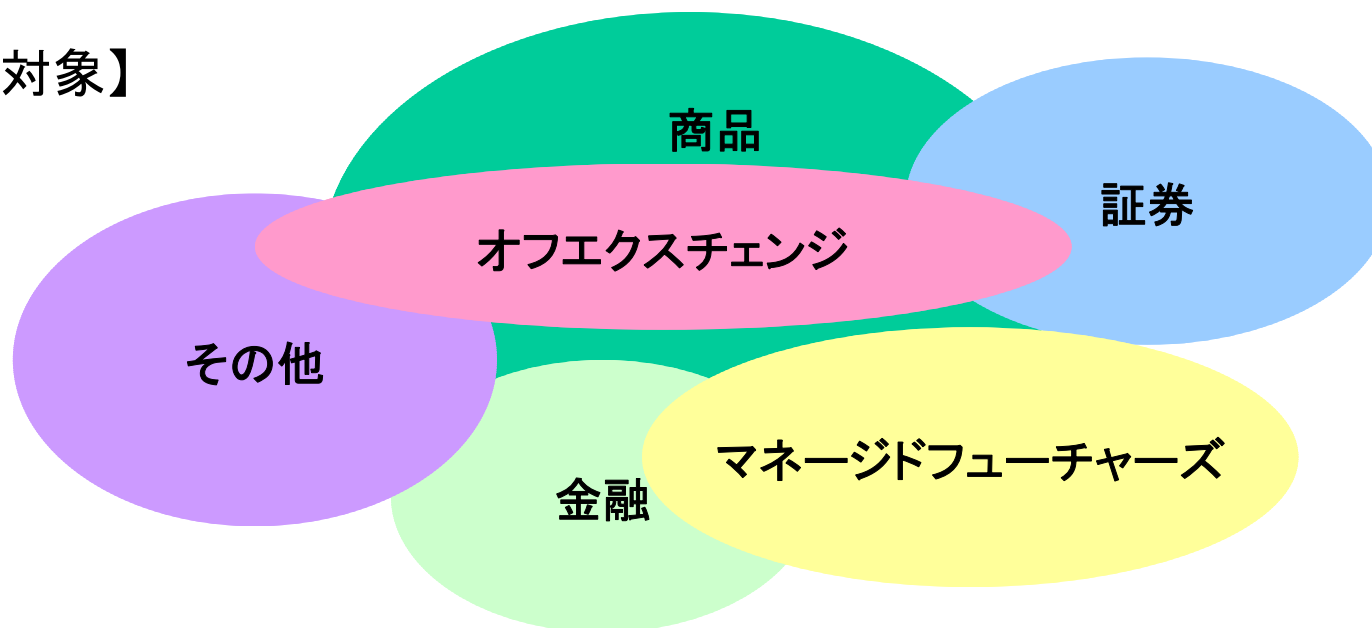


*1 オフエクスチェンジとは取引所に上場されていない投資対象品目を指します。

*2 プロップハウスとは自己資産を契約社員に、電子取引を利用し短期の先物取引を中心に運用させる事業

将来のグループ構成イメージ

【投資対象】



【事業内容】



お問い合わせ先

アストマックス株式会社 管理部

TEL:03-5447-8400 FAX:03-5447-8431

URL:<http://www.astmax.com/>